

(2) ICF の活用支援に関する研究

川崎医療福祉大学大学院 医療情報学専攻 博士課程 榎部 公一
川崎医療福祉大学 医療情報学科 岡田美保子

【要 旨】

著者らは、ICF (国際生活機能分類) の活用支援を目的として、「活動と参加」の領域について用語辞書の開発を試み、昨年度の川崎医療福祉学会研究集会で報告した。ICF は様々な応用領域で PT, OT 等の医療専門職の他、教師やご家族により利用されるが、課題として、用語の難しさ、項目数の多さ、構造の複雑さ、理解と活用の難しさが指摘されており、単純なキーワード検索だけでは活用支援は困難である。

そこで、様々な活用を支援するため、「活動と参加」と「環境因子」の領域を対象として、ICF に現れる概念・用語と、項目の関係を整理した IT 対応 ICF 概念用語辞書の開発を行っている。開発には「障害者福祉研究会：ICF 国際生活機能分類 — 国際障害分類改定版 —」を用いた。開発手順として、まず対象領域437項目に対して形態素解析を行った。その結果、基本用語として6,043語(重複を除くと2,070

語)が抽出された。続いて、基本用語と分類項目の関連を表す指標として FLR 値と tf-idf 値を計算し、これらの分布について検討した。さらに FLR 値と tf-idf 値に対し主成分分析を行い、得られた第一主成分を、基本用語と項目の関連を表す総合指標とした。

本辞書を ICF ブラウジングツールに組み込み、ICF 活用支援システムとして機能拡張をはかった。たとえばキーワード検索では、該当する用語が辞書にある場合は、関連のある「分類項目」「分類コード」が関連度の高い順に表示される。ICF はチェックリストで活用されることが多いが、様々な疾患や障害別、限定された場面や年代別等といったコアセットの必要性が指摘されており、各領域の専門家による新たなコアセット・コードセットの作成支援ツールとして本システムの活用が期待される。用語辞書については、各種の活用を通じて評価し、拡張していく予定である。